

戦後80年・沖縄戦没者慰霊祭

石破総理は戦没者と県民の祈りを冒涇するな！

6・17防衛省・警察庁・厚労省交渉



6月18日～23日
ハンスト突入
県庁前へ
一緒に！激励へ！
23日は
平和公園テントで

●南部遺骨土砂を戦争に使うな！ ●機動隊は平和の礎に来るな

6月17日（火） 昼12時30分から国会議員会館（会場後日発表）

交渉相手 防衛省・警察庁・内閣府・厚労省

主要な要請事項

- 1 防衛省は辺野古基地建設のための埋め立て土砂の採取候補地から戦没者遺骨が残る本島南部地域を外すこと。並びに埋め立て工事を要する浦添西海岸への那覇軍港移設断念せよ。
- 2 石破総理大臣は6月23日の追悼式に参加するのであれば、戦没者遺骨が残る南部の土砂を辺野古基地建設に使わないことを表明した上で参加すること。
- 3 警察庁は6月23日の沖縄全戦没者追悼式の要人警護に当たり、警察官が平和の礎区域内に立ち入り、遺族達の供えた花や線香を警棒でひっくり返す不遜な暴挙をやめさせる

6月23日は沖縄戦の組織的戦闘が終わった日で糸満市摩文仁の平和祈念公園において沖縄全戦没者追悼式が沖縄県によって挙行される。沖縄戦戦没者への追悼式であるにもかかわらず日本政府による戦没者と遺族への冒とくの場になっている状況がある。歴代の総理大臣は追悼式で戦没者への哀悼の意を表明するが、やっていることは戦没者の遺骨や御霊石とも言うべき、血を吸い込んだ土砂を海に捨てようとしている。戦没者に哀悼の意を表するのであれば行動でも示すべきである。浦添西海岸の埋め立てによる米軍軍港建設も同様に許されるものではない。

沖縄全戦没者追悼式が行われる平和記念公園内には戦没者の氏名が刻銘された「平和の礎」区域がある。そこは遺族にとってはお墓のような場所で、重箱やお花、線香などを携えてお参りに多くの遺族が訪れる。その霊域である平和の礎区域に警察が大挙して侵入して遺族が供えた花や線香を警棒でひっくり返して調べているのだ。これは戦没者と遺族に対する冒とくである。警察庁はこの行為をやめるように指導すべきである。

戦後80年沖縄戦で亡くなった韓国人戦没者遺族のDNA鑑定参加にも決着をつける。

沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」

代表 具志堅隆松 090-3796-3132 事務局 上田 090-2062-5695